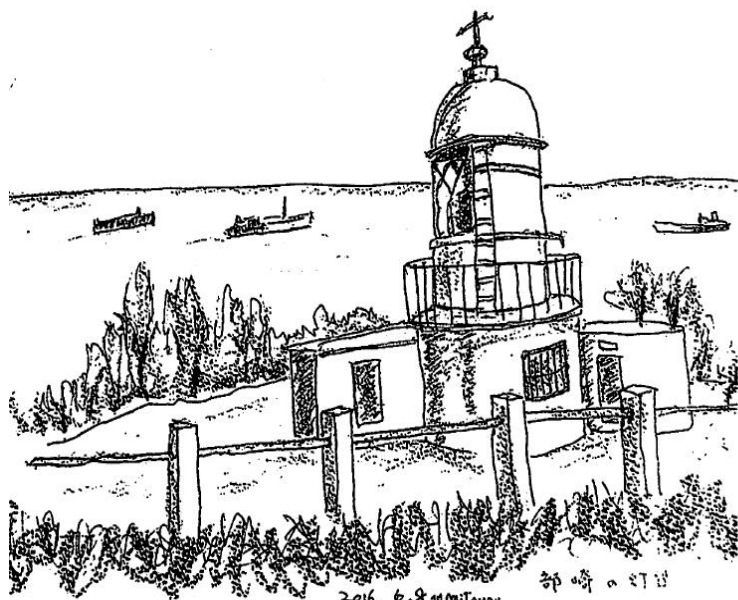


週報2021年1月31日



2021年教会標語聖句

見よ。わたしは新しい事をする。  
今、もうそれが起ころうとしている。

イザヤ書43章19節

シオン教会信仰指標：“イエス様と共に歩む”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2021年1月31日

司会・奏楽・メッセージ 山崎銀次郎牧師

開会の祈り

使徒信条・標語聖句唱和

賛美「主の愛が今」

\* 今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう！ \*

お祈り

聖書朗読 ルカによる福音書5章1-11節

説教題「神の時」

応答の祈り

終祷「祝福の祈り」

**交わりの三省**

- \* 互いに愛し合っていますか
- \* 互いに赦し合っていますか
- \* 互いに祈りあっていますか

# 説教要約

ルカによる福音書 5章 1-11 節

「神の時」

## ①導入（そのとおりにする）

私達は、全世界にリバイバルが起こる事を願い、祖国の救いを願い、地域の人々が福音を信じる事を願い、そして自分の家族や友人がイエス様と出会う事を願い、祈ります。総じて、信仰を持つ者にはビジョンがあります。しかし、信仰生活の中で私達は“**その通りにならない**”というジレンマ（葛藤）に陥いる時があります。そして信仰生活を積み重ねる事によってビジョンの実現には“**神様の時**”があるという事を学んで行きます。その中で、忍耐や謙遜を学びます。今日のペテロの召命の箇所は正に、“神様の時”について学ぶこの上ない教材の一つです。今日の鍵になる言葉は「**そのとおりにする**」です。その時、網が破けそうなくらいのたくさんの魚が取れました。

## ②本論（そのとおりにする=御言葉の權威に従う）

実際の所、イエス様がペテロに言った「陸から少し漕ぎ出すように」という要求はペテロに負担のかかる言葉です。何故なら、網を洗うという事はその日の漁の終わりと明日の準備を意味していたからです。つまり本来ペテロはこの事（網を洗う事）に時間を割きたかったはずですが。しかしペテロはイエス様の言葉の通り、船を出し沖へ漕ぎだしました。

そんな、聞き分けの良いペテロでしたが、次のイエス様の要求に対して、一瞬躊躇します。その要求とは「深みに漕ぎだして、網を降ろして魚を取りなさい」です。ペテロにとって、“**夜通し働いて、一匹も魚を取れない**”という事は“**少なからず失意を抱いていた**”ようです。しかし結果的にペテロはイエス様の言葉に従って、網を下ろしました。今日の箇所の重要なポイントは、ペテロはイエス様の言葉を神の（權威ある）言葉として従ったという所です。

信仰者の分かれ道はビジョンの実現に向かって成果が上がらない（ように感じる）事に対し、それを失意にするか、神の言葉に期待して、一

歩踏み出すかです。今年の標語聖句は「見よ。わたしは新しい事をする。」という御言葉です。今、もうそれが起こる！と信じて祈る時、語る時、与える時、私達は神の時を体験します。御言葉に期待して一歩踏み出して参りましょう！それが（信仰の）深みに漕ぎだすという事、神を体験するという事です。

## ③結論（御言葉に力がある）

神様の時は必ずやって来ます。しかしその“時”について十分な理解がないと、私達は信仰生活の中で魚の大群がすぐ側に来ていても（つまりビジョンの実現）、取り逃がしてしまいます。今日私達が学ぶべき事は自分の経験や価値観に縛られるのではなく、神の權威に服従するという事です。私達に力があるわけではありません。**御言葉に力があります**。私達、全ての信仰者はイエス様の弟子として、人間を取る漁師として選ばれています。私達に与えられたビジョンの実現の為に一歩、又一歩前進する者となって参りましょう。

